

令和4年度 大阪市立住吉中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3 年	学校	94	67	51	48	5.5	12.4	5.3
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
4月19日	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	99	53.5	57.7	54.7	58.2	58.2	11.5	4.1	10.4	4.8	6.3
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	55.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
	大阪府	—	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1

※ 3年生の理科はC問題を選択

令和4年度 大阪市立住吉中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 全国と比較して、正答率が上回るものはなかったが、マイナス1割～2割で推移しているが、「(2)情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」領域においてマイナス8.3割となっており、苦手分野が浮き彫りとなった。

＜数学＞ 全国と比較して、「図形」領域において、プラス3.2割となっており、他はマイナス0.6割～2.8割であった。

＜理科＞ 全国と比較して、「粒子」と「地球」を柱とする領域で正答率を上回った。「生命」を柱とする領域ではマイナス5.6割となった。

全教科ともに、無回答率の多さが大阪市、全国を上回るという結果であった。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

平均点では大阪府を1.43割、大阪市を2割上回る結果を得ることができた。

＜課題＞

僅かながらではあるが、大阪府平均において、国語で0.3割、数学科で1.3割下回りはしたが、理科では2.3割、社会でも2.3割、英語では4割上回る結果を得ることができた。数学においては、特に「図形」領域において、マイナス1割となっていることが課題であり、無回答率についても、大阪府平均を0.8割、大阪市平均においては1割上回る結果であった。無回答率の解消も今後の課題である。

【今後に向けて】

授業規律を確保しつつ、生徒の学力向上に向けた授業改善に向けた取組として、生徒が主体的に「学びに向かう」授業展開を実践しながら、基礎・基本となる学習の定着を進めていく。また、学習用タブレット等のICT機器を活用しての授業展開の充実を行い、更なる学力向上を進めていく。